

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロックガイドライン

日本ペインクリニック学会・日本麻酔科学会・日本区域麻酔学会 合同 抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロック ガイドライン作成ワーキンググループ (WG 長: 齋藤繁 群馬大学大学院医学系研究科 麻酔神経科学分野)

真興交易、2016年11月10日 第1版第1刷発行

Grading Scale of Strength of Evidence

- A (強): 効果の推定値に強く確信がある
- B (中): 効果の推定値に中程度の確信がある
- C (弱): 効果の推定値に対する確信は限定的である
- D (とても弱い): 効果の推定値がほとんど確信できない

Grading Scale of Strength of Recommendation

- 1: 強く推奨する
- 2: 弱く推奨する (提案する)

■1 チョウセンニンジン

疾患:

血小板凝集阻害 (副作用)

CPG 中の Strength of Evidence:

D (とても弱い): 効果の推定値がほとんど確信できない

CPG 中の Strength of Recommendation:

2: 弱く推奨する (提案する)

副作用に関する記載ないしその要約:

『ガイドラインにおける、抗血栓薬取り扱いの問題点と考え方』の項に、下記の記載がある。

『推奨: 術前に、にんにく、イチョウ葉、チョウセンニンジン¹のハーブ類を摂取している患者で高リスク群の手技を施行する場合には、血小板凝集阻害が生じることがあることから、それぞれ、7日、2日、1日の服用中止を設けることが望ましい。』